Christmas message for you

牧師　小平牧生

クリスマスにはいろいろな思い出があると思います。
私にも、プレゼントを楽しみにした子どもの頃のクリスマスから、徹夜で準備した教会のクリスマスなど、ふりかえるといろいろな思い出があります。その中でも、毎年クリスマスの季節を迎えると思い出すのは、今から22年前のクリスマスに召された姪のことです。

彼女は、母の胎の中で通常の半分の約６ヶ月を過ごして生まれてきました。そのからだは514gという手のひらに乗るような赤ちゃんでした。皆さんは彼女がどんなに小さな存在であったか想像できると思います。
まだ様々な部分が充分に造り上げられていない肉体でありながら、しかし人間は神の最高傑作品であり、どんなに完全であるかを、彼女は７年間の人生を通して表し続けました。
生後一年たった頃、彼女は高熱のために脳のある部分の機能を失いました。医師は「もう感情を表すことはできないでしょう」と言いました。ところが、それでも家族や看護師さんたちが変わることなく彼女に語りかけ、肌を触れ合わせて愛情を注いでいく中で、やがて彼女は笑みを浮かべるようになりました。これは本当に驚くべきことでした。
彼女は、その人生を通して、人は何を知っているとか、何ができるかではなく、生かされているということ自体がどんなに大切で、尊いものであるかということを、一言の言葉を語ることなく教えてくれました。彼女の生かされた日々はいつも全力で、一呼吸一呼吸が全身の力を傾けてものでした。
そして、2003年のクリスマス、家族が彼女を囲んで賛美歌を歌い、順番に祈り、最後に父親が祈り終えるとともに、彼女は母親の腕から神の腕の中に移されていきました。永遠のいのちの生涯に移されたのです。

私たちは、満たされて豊かであることを求めます。もちろんそれはすばらしいことです。しかし十分に持っていながら不安の絶えない人もいれば、何も持っていなくても喜びの中に生きる人がいます。みなさん、私たちは何もできなくても、何も持っていなくても、私たちは神によって愛され生かされている尊い存在なのです。
私たちの創造者である神は「わたしの目には、あなたは高価で尊い。わたしはあなたを愛している」と言われます。そして、その証として、イエス・キリストを救い主として誕生させました。それがクリスマスなのです。